

日本赤十字社 日赤あいち

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society
愛知県支部

広報誌



第37回「NHK海外たすけあい」にご協力をありがとうございました！

- 救うことを、つづける 赤十字の災害対応 ～令和元年台風第19号災害への対応と平時の取り組み～
- 日本赤十字社愛知県支部 管内施設共同Instagram開設のお知らせ
- ぼうさいこくたい2019参加報告
- 愛知県赤十字血液センター 子ども向け献血啓発動画を作成
- クロスサポーターに聞く!! 名古屋情報専門学校

No. 141
2020.冬

尾張赤十字救急奉仕団

田原市赤十字奉仕団

愛知県赤十字無線奉仕団

赤十字奉仕団
ボランティア
リレー

ボランティアとして
活躍する奉仕団が
リレー方式で登場

今号の奉仕団 愛知県赤十字無線奉仕団

委員長 藤島宏充



上/無線通信機を使った広報活動
下/NHK海外たすけあい街頭募金にも参加

愛知県赤十字無線奉仕団は、アマチュア無線技士資格を持つ約40名の組織です。
私たちは、災害などが発生した際に、無線通信技術を駆使して関係機関と連絡を取り合うなど、赤十字の救護活動に少しでも貢献できるようにと心がけています。年間を通じて他都道府県無線奉仕団との無線通信訓練や現地を訪問するなど、顔の見える関係づくりに

こんな活動をしています
無線通信による
赤十字活動のサポート

イチャオシポイント
非常時に活躍する無線通信
有資格者を大募集

災害時における赤十字活動をより円滑にするためにも、赤十字を一般の皆さんに知っていただくことが大切です。そのため、街頭募金活動への参加や、5月の赤十字運動月間を中心に無線通信による広報活動を行っています。
今後も、いつ起こるかもしれない大規模災害発生時に私たちの能力が発揮できるよう、研鑽努力を積み重ねて参ります。県下の有資格者の皆さん！ぜひ参加してください。

弥富市赤十字奉仕団

愛知県赤十字救急奉仕団

南山大学青年赤十字奉仕団



活動資金

ご協力ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として多額のご寄付をいただいた法人様

- 藤吉工業株式会社 様
- 中西電機工業株式会社 様
- 一般財団法人坂文種報徳会 様
- 株式会社山忠 様
- 日本パッキング株式会社 様

赤十字事業は、皆さまからの活動資金のご協力によって支えられています。

ご協力を
お願いします



郵便振替口座/00860-1-732 日本赤十字社愛知県支部
郵便局備え付けの払込取扱票でお手続きください。ご不明な点は
日本赤十字社愛知県支部事務局総務企画部赤十字会員課まで。

TEL 052-971-1596 (直通)



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

愛知県支部

〒461-8561 名古屋市東区白壁1-50 TEL 052-971-1591 (代表)
発行元/日本赤十字社愛知県支部 発行日/令和2年1月1日



活動の詳細や最新情報は
ウェブサイトかツイッターへ

日赤愛知
www.aichi.jrc.or.jp



日本赤十字社
愛知県支部
支部長
伊藤 和明 さん

謹んで新春のお慶びを申し上げます
平素から赤十字事業の推進に格別のご理解とご高配を賜り、心から感謝申し上げます。昨年はいよいよ令和という新しい時代を迎えた、記念すべき年でした。一方、台風第19号をはじめとする自然災害により、全国各地でも多くの被害が発生した一年でもありました。被災地の皆様におかれましては、一刻も早い復興が進むことを心からお祈り申し上げます。
さて、愛知県支部では近い将来発生が危惧される南海トラフ地震や、近年増加している豪雨災害などに備え、資機材の整備や救護員及び防災ボランティアの養成、自治体への防災セミナーなどを通じて、大規模災害への対応能力と地域の防災力を高めていくことに努めております。
これらの事業は皆様からのご協力により支えられております。今後とも県民の皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

クロスサポーターに聞く!!

日本赤十字社愛知県支部とタイアップし様々な活動に取り組む企業、団体、人物を紹介します。

No. 30
学校法人名古屋学園 名古屋情報専門学校
校長 伊藤 和明さん 中西 達也さん
活動内容
名古屋緑区にある昭和52年創立の私立専修学校。高等課程と専門課程による5ヶ年一貫教育を行う。昨年度、防災減災プロジェクトPR用のオリジナルグッズの製作で赤十字とタイアップ。
http://www.nagoyajoho.ac.jp/



中西 達也さん

名古屋情報専門学校の学生が 防災・減災啓発のための 日赤愛知県支部オリジナル缶バッジを製作

卒業生からの相談をきっかけに
始まった取り組み

学生の将来の選択肢を広げる
実践・体感教育

「情報の学校」でなぜ缶バッジを作ることになったのか、まずはその訳を聞きました。「愛知はものづくりの県のため、本学でも地元就職を希望し、製造業に就職する学生がいます。しかし、学んだ分野と仕事とのギャップから、離職してしまうケースもありました。これを防ぐと、専門課程の学生を対象に地元企業の協力のもと、製作・検査・梱包・データ入力などさまざまな仕事を体験するジョブトレニング（以下、ジョブトレ）を始めました。缶バッジ作りもその取り組みの一つです」

多くの学生が
赤十字の缶バッジ製作に参加

ジョブトレは授業でも部活動でもなく、参加は学生の自主性によるもの。しかし、缶バッジ製作には普段以上に学生が集まり、2000個のバッジはすぐにはできなかったそうです。「最初はスキルアップのために参加していた学生にも、だんだんとその先の人のためにという想いが育ってきたと感じています。今回は特に社会貢献につながるため、参加者が増えたのかもしれない」と中西さん。「多くの学生が通うため、地域に迷惑をかけてしまうこともあります。だからこそ、少しでも地域に貢献したい」という伊藤校



缶バッジは専門課程の学生が一つひとつ
手作りでしています



昨年度製作した缶バッジ

長の思いから、学校を挙げて地域のボランティア活動に力を入れており、活動を通じて、学生の社会貢献意識も醸成されているようです。
ジョブトレやボランティアなど、自主性を重んじた活動に取り組む中で、学生の新たな成長に気づくことが多くと話す伊藤さん。今後の取り組みについては、「常によりよい教育方法を考え、前に進んでいく。ただ、学生それぞれに必要な支援のレベルは様々です。全体の到達段階を見ながら、誰一人取り残さず全員で進みたい（伊藤校長）」「卒業した先のことも考えて、その可能性を広げる教育をこれからも模索します。毎年のように新しい取り組みを行っている本学ですが、赤十字ともグッズ製作だけでなく、ボランティアとしても協同していければ（中西さん）と語っていただきました。

第37回 NHK海外たすけあい

ご協力ありがとうございました！

NHKと日本赤十字社は毎年12月に「NHK海外たすけあい」として、世界で苦しんでいる人々の支援活動を使途とする寄付金の募集を行っています。37年目となる今回も、12月1日から25日までの期間中、県内各地で赤十字奉仕団による街頭募金活動などを展開し、多くの方にご参加いただきました。



左／地域赤十字奉仕団による街頭募金を県内各地で実施
中／青年赤十字奉仕団と特殊赤十字奉仕団による名古屋駅前での街頭募金
右／多くの方にお越しいただいたNHK名古屋放送局の受付

ぼうさいこくたい2019に参加

赤十字の防災減災の取り組みを報告

10月19日(土)～20日(日)に名古屋市ささしまライブエリアで開催された日本最大級の防災イベント「ぼうさいこくたい2019」に参加しました。読み物を通じた過去の災害の追体験や非常持出品・日常備蓄などの検討を行うワークショップと、多文化共生事業や防災学習教材の開発の取り組みについてのポスト

ターセッションを通じて、多くの方に赤十字の防災減災の取り組みをご紹介します。



上／非常持出品を実際に手に取りながら検討



左／ポスターセッションコーナーの様子
右／当日はハートちゃんも参加し、会場を盛り上げました

公式Instagramを開設

日本赤十字社愛知県支部
管内施設共同Instagram
がスタート！

令和元年12月1日より、日本赤十字社愛知県支部の公式Instagramアカウントを開設しました！愛知県内の5つの赤十字施設(支部事務局、名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、愛知県赤十字血液センター、日本赤十字豊田看護大学)が協力し、赤十字の幅広い活動をより身近に感じていただけるよう積極的な情報発信に努めますので、ぜひフォローしてご覧ください。



【@nisseki_aichi】
で検索！

子ども向け献血啓発
動画を作成血液について学んで
献血の大切さを知る

愛知県赤十字血液センターでは、昨今の若者の献血離れを解消すべく、青少年(特に将来の献血を支える世代となる小中学生)に向けて、血液・献血のいろはをわかりやすくアニメーションで作成しました。

献血が大好きな博士が血液のことから献血のことまで丁寧に教えてくれ、小学生でも理解しやすい内容です。



愛知 知県支部が地域コミュニティにおける災害時の「自助」「共助」の力を高めることを目的に、平成28年から毎年実施している「地域のための防災・減災訓練」。今年度は安城市の協力のもと、安城市総合防災訓練における医療救護訓練への参加及び赤十字防災セミナーや子ども向け防災教育教材を実施する赤十字ブースの展開という形で開催しました。

医療救護訓練では、日赤の医療救護班が、安城市災害医療コーディネーターの指示のもと、安城更生病院での病院支援訓練と、地元医師会・歯科医師会・薬剤師会などと連携した、救護所におけるトリアージや応急処置訓練を行いました。

また、町内会や消防団の方々を対象とした赤十字防災セミナーでは、大きな地図を用いて

住んでいる地域の特徴や災害時に起こりうる被害などを洗い出し、必要な対策や備えを考える災害図上訓練(〇)を実施。参加者は書き込みでいっぴいになった地図を囲みながら、熱心に議論していました。

その他にも、地域の小学生を対象に防災ボードゲーム「いえまですくろく」を通じた防災教育を展開したり、小さなお子さんでも参加できる防災教材の「ぼうさいましがいがし」がしけんはっけん!」の体験を行ったりと、幅広い世代の方々に防災・減災について学んでいただくことができました。

災害発生時に少しでも多くのいのちが守られるよう、今後愛知県支部は県民の皆様への防災・減災力の向上を目指した活動を続けて参ります。



[6]地域の医療機関との救護訓練



[7]小さなお子さんでも防災を楽しむ「ぼうさいましがいがし」



[8]地域の小学生たちが心肺蘇生にチャレンジ



[9]日進市赤十字奉仕団による市民まつりでの募金活動



[10]「ぼうさいこくたい2019」でも義援金を受け付け [11]一宮市赤十字奉仕団による街頭募金

愛知県支部へお寄せいただいた義援金 **63,172,070円** (11月末日時点)

地域のための防災・減災訓練

平時から災害に備えてできること



千曲川の氾濫から3日、泥水が残る被災地



[1]避難所となった小学校で健康相談を実施 [2]被災しライフラインの途絶えた施設から患者を搬送 [3]避難所で活躍する赤十字奉仕団 [4]被災者に寄り添いこころのケアを実施 [5]切れ目のない支援を行うため、後続班に活動を引き継ぐ救護班



救うことを、つづける 赤十字の災害対応

令和元年台風第19号災害への対応と平時の取り組み

甚大な災害被害に中部エリア一丸となって対応

令和元年10月12日から13日にかけて日本に上陸した台風第19号は、広い範囲に記録的な大雨や暴風をもたらしました。計13都県に大雨特別警報が発表され、洪水や土砂災害の発生による甚大な被害が相次いだことから、日本赤十字社は各地で災害救護活動にあたりました。

愛知県支部は、千曲川の氾濫により甚大な被害を受けた長野県に対し、富山、石川、福井、岐阜、静岡、三重の6県と協力して支援を実施。発災当日の13日から災害医療コーディネーターチームや医療救護班を被災地へ派遣し、巡回診療や避難所における医療ニーズの調査、こころのケア活動を展開するなど、エリア一丸となって被災地の支援を行いました。